

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201427		
法人名	有限会社 まごころデイサービスセンター		
事業所名	グループホーム 隠居の家	ユニット名	
所在地	石巻市井内字三番113-2		
自己評価作成日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>小規模施設・人数ならではの家庭的なゆったりとした生活が出来る様支援にあたっており、出来る限りご本人様の意向に添える様、工夫・努力をしている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成21年11月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>道路沿いの民家を改造、開設したグループホームである。町内会に加入し行事への参加等を通じて地域との関係が密であり、区長、民生委員の緊急通報装置への登録や駐在所署員の会議等への参加など、防犯、見守り、災害時の心強い協力者である。管理者、ケアマネジャーはリーダーとして、常に自らの業務を振り返り、職員の目線での意見、評価を取り入れ、利用者、家族の満足のために努力しているが、共用空間に余裕がなく使い勝手の不自由はみられる。今一步の工夫、努力を期待したいが、見慣れた景色、馴染んだ空間、家庭的な雰囲気の中で、利用者は穏やかに安心して共に生活している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホーム隠居の家 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで理念を再確認し「介護理念・心得・言葉使い」など、家庭的な雰囲気の中で行われている。	前回の外部評価後皆で話し合い、「ご近所付き合いや自然との触れ合いを感じ、癒される関係を共に築きます。」を理念に追加し共有を図り、日々実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事への参加を促したり、運営会議での話し合いを設けている。	町内会に加入し、地域行事として道路の草むしりや運動会に参加もしている。グループホームで実施している「そーめん流し」「敬老会」への近所の人の招待や、折り紙、指体操など折々にボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、地域包括支援センターのご協力を得ながら、実践していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設について情報を積極的に公開し、頂いた意見を参考にさせて頂いている。	運営推進会議を3回実施済みである。区長、民生委員、地域包括センター、駐在署員他の参加で毎回ホームからの運営報告や、インフルエンザ対策、虐待防止、防犯など委員から多彩な研修、助言もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点については、常に相談させて頂いている。	「隠居便り」を市担当者に持参し利用者の様子をお知らせし、窓口にも置いている。日常的な事務手続きや認定更新時の機会を通じて、運営や暮らしぶりを伝え、現状の空きベッド解消についても相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合を除き、ケアを工夫することで出来るだけ身体拘束をしないように努めている。	グループホームの事務室内に利用者への禁句を掲げ、日々の戒めとしている。毎月の全体会議では身体拘束についての勉強もしている。転倒し易い利用者もいるが、時々に合わせて全員で工夫し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部へ研修に行き、その内容を全職員が把握するよう内部研修を実施予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容を内部研修にて全職員が共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来所した際や電話にて常に不安・疑問があれば申し出て頂ける様な環境作りをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を申し出て頂ける様な環境作りをし、改善点などがあれば速やかに行動している。	毎月の支払い時や面会時に声がけをし、意見、要望を聞いている。ケアホームでの独居から住み替えた利用者は、家族から「出来ること」の情報や要望がなされ、掃除、茶碗拭き、後片付け等を日課としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外でも、常に気軽に話し合える環境で、速やかに申し送り、改善を行っている。	毎日のミーティング時に利用者の変化や気付きを申し送り、毎月の全体会議では気軽に意見を述べ、運営者、管理者はそれらの反映に努めている。タイムスケジュール表の掲示もその一つである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々での面談の際、意見などを確認し、各自が向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて内・外研修を受ける為の確保や、働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同職者との研修や他施設行事参加交流により、サービスの質を向上させていく取り組みとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係の構築を第一として全職員がケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時以外にも、来所された時や電話などで気軽にお話しして頂ける様な環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れて頂くこと、今までの生活の継続を念頭にケアにあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭におき、人生に寄り添う気持ちでケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに一緒に参加して頂き、出来る限り協力して頂いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にしている知人・友人・地域との関係が途切れない様、可能な限り関わり合う事が出来る支援をしている。	地域での馴染みの美容院に家族と出掛けたり、趣味としていたダンスサークル発表会への出席、また地域の介護予防教室「どんぐりの会」への参加と一人ひとりへの支援を図り、関係を継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の把握をし、職員が中立となり交流が図れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて手紙や、電話などにより状況確認、報告することもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員でアセスメントに取り組み、職員のペースにならない様気をつけている。	日頃から利用者一人ひとりの思いの把握に努め、息子さんの名前を頻繁に呼ぶ時等も、「会いたい」気持ちを察し、お願いして面会に来てもらうなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・馴染みのある方から、お話を聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り、個々を把握し本人のペースを優先している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員、家族、本人、と話し合い本人に合わせた計画としている。	ケアプラン作成時ケアマネジャーは家族の要望を聞き職員の意見を十分に取り入れて作成している。そして時には職員の目線での評価も試み、より一人ひとりに合ったプランとし家族に渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当制とし、その担当と共に全職員が情報を共有したり、お互いの気づきを話し合っ、生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日中の職員4人体制(可能な限り)とし、その時々ニーズに柔軟に対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて地域住民・ボランティア他サービス資源と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の、希望医療機関を受けられる様、支援している。	日中から利用者の様子を観察し、訴えに早めに対処している。家族と通院受診する際には、状態や変化の情報をお知らせし、受診後には家族が結果報告し、職員等と共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは、実施していないが、家族と重度化に伴い、施設で出来る事などの説明・話し合いを行っている。	入居時にグループホームでの対応は説明している。加齢や認知度等状態の変化による支援は、個別に時々での対応であり、本人、家族の思いの変化に添った方針、意思確認等についての取り組みはこれからである。	運営者は重度化、終末期での対応について、本人、家族の意思確認も含め検討している。「隠居の家」としての方針の作成、本人、家族の意思確認も含め今後期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後、実施予定。(一部の職員は訓練終了済)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時など地域協力を要請しており、現在調整中。地区代表二名には施設緊急連絡先承諾していただき連絡先名簿記入させていただく。	年に2回災害対策として避難訓練を計画し、1回は消防署立会いで実施している。車椅子使用者の避難支援方法についての助言やアドバイスも頂いた。次回は夜間想定で計画し、水、缶詰、等の用意もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、声掛けや対応にあたっている。	事務所内にケア実施時の禁句が掲げてあり言葉かけの配慮がうかがえた。職員は一人ひとりへの呼び方を統一して名前呼び、関わりも穏やかで丁寧である。個人記録の保管についても取り決め、周知されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に決定して頂けるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、意向に添える様、利用者優先で過ごせる様に、工夫・努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・外出時の化粧・着替えの際の衣服の選択の支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事ごと、季節感を取り入れたメニューや、個々の好みを取り入れたり、時には外食等バラエティー豊かに楽しみ味わって頂いている。可能な方には味付け、配膳、片付けを行って頂いている。	毎週交代で職員が献立を作成し、週2回利用者と食材を買いに出掛けている。時期にはトマト、茄子、胡瓜など畑での収穫や差し入れがあり豊富である。台所に接する食堂が狭く、職員はサポートのみである。	運営者は「設備面で職員の分の食事作りは難しい」としている。色々課題はみえるが、知恵と工夫を出し合い、共に食事することの意義を再度話し合い楽しい食事の場作りを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士の指導のもと、個々の食形態に合わせて提供し、水分も個々の必要量の提供・記録を行い支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕・場合によっては多めに口腔ケアを行っている。(個々の状態による対応ケア)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表から個々のパターンを把握し、対応している。	便秘気味の利用者への支援として、水分を多めに摂ってもらったり、足上げ等の軽い運動を奨める等の工夫をしている。身体能力の低下、夜間覚醒時のふらつき等もあり夜間は居室でのポータブルトイレの利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物での調整や、運動不足解消、腹部マッサージを行ったり、必要時には医師へ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週2回だが、可能な限り希望に添うようにしている。	利用者の殆どは夕食前に入浴を済ませている。訪問日に早速入浴支援の場面がみられた。清潔保持と拒む人への工夫に努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を特別設けずに、個々のその日の気持ちに添える様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬情報を共有し、副作用についてもその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の延長として、昔の生活歴について聞き取りを行い、ケアを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を取り入れながらの外出、個別の外出などの支援を行っている。	食材購入時の同行や個別の希望に添った買い物、ドライブ、日向ぼっこ、戸外でのおやつと外出支援に努めている。近距離の道の駅に出掛けての足湯体験、買い物は車椅子の利用者も楽しむことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には少額でも管理していただき、また外出レク時など買い物の際は自己の精算(預かり金にて)対応をしていただく支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携し、可能な限りやり取りができる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のディスプレイをしたり、場合によりテレビを消すなど、居心地よく過ごせる工夫・努力をしている。	共用空間の温、湿度管理は適切である。加湿器を稼働させ、不足の場合は濡れタオルも併用し、大きめの曆を用いた見当識への配慮もある。毎月職員が交替で季節毎のディスプレイに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室で静かに過ごす方、ダイニングで皆さんと過ごす方、それぞれの思いで過ごせる様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際なじみの物を持ってきて頂ける様お願いしている。	部屋に写真を飾ったり、般若心経を貼ったりと落ち着いた生活への支援がうかがえる。ちゃぶ台、衣装ケースなど馴染みの品が持ち込まれているが、収納部が少なく棚の上に物があるので万全の配慮をして頂きたい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、廊下へ手すり設置。		